



十和田囲碁クラブの皆さんに囲まれて



人インタビュー

つちむね よし ゆき

土棟喜行さん(34歳)

囲碁を覚えるきっかけは

小学1年生のころ、父に打ち方を教えられて面白くなり、小学4年生ころから、市内の囲碁教室に通うようになりました。そのときの講師は、わたしの師匠でもある池田直雄先生でした。

囲碁の楽しさ面白さはどんなところですか

相手との読みあいや駆け引きの積み上げで勝利したときが一番楽しい。気力が充実しているときに勝ちにつながります。

決勝はどんな内容でしたか。日本代表となった今の感想は

中園清三さんとの決勝戦は、自分なりにうまく打ちまわしたと思いますし、自分の力を出し切りました。優勝できるとは……夢のようです。

世界大会はいつ、どこで開催されますか

平成20年5月に東京で開催される予定です。世界約70カ国から参加し、熱戦が繰り広げられます。

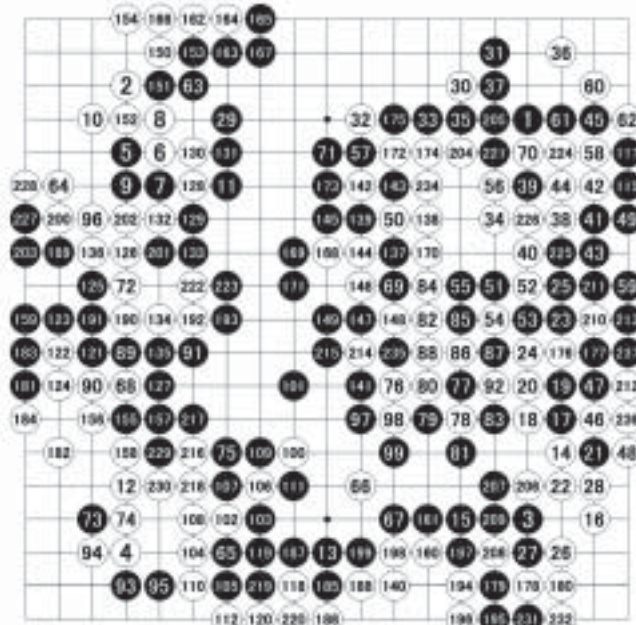
世界大会に向けての決意は

出場するからには世界チャンピオンを目指します。

凱旋報告はだれにしますか

まず、師匠の池田先生、そして家族。夢だった日本一になれたのは、家族の支えがあったからだと思います。娘の紗良(さら)は8カ月になりますが、パワーの源です。また、支えてくださいました、多くの皆さんに感謝しております。ありがとうございました。

9月に東京都の日本棋院で、招待選手、都道府県代表あわせて64名が参加して開催された、第29回世界アマチュア囲碁選手権日本代表決定戦において、本市出身の土棟喜行さんが見事初優勝を飾り、代表の座を手に入れました。このビッグタイトルは、本県出身者では、鳴海直さん(青森市)以来28年振りの快挙です。



〈総譜〉 ①—②40完 黒4目半勝ち
 ①③ツグ(78) ①④コウ取る(54) ①⑥ツグ(87) ②③ ツグ(208)
 ②③⑧コウ取る(142) ②③⑨ツグ(214) ②④⑩ツグ(143)

本棋譜は、トーナメント戦を勝ち抜いた全勝同士の決勝戦で、初手から終局(240手)までの手順を示しています。白番は、招待選手の中園清三さん、黒番が東京都代表として参加した土棟喜行さんです。下辺の黒地を大きく荒されましたが、中央に黒地がまとまり黒の勝ちが決まりました。世界アマ囲碁大会での活躍が楽しみです。

(解説:十和田囲碁クラブ 池田直雄)

問い合わせ先

総務課文書広報係 ☎235111内線156